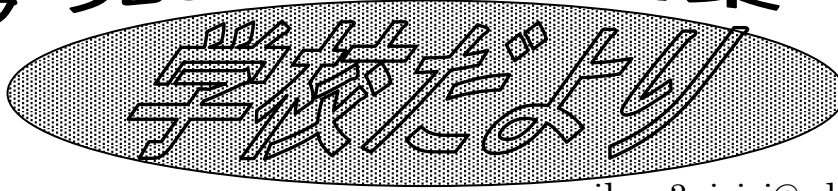


8・9月号 光あふれる西柴



令和4年8月29日
横浜市立西柴小学校
横浜市金沢区西柴4-23-1
Tel 045-783-1182
校長 柴原 美樹子

e-mail y3nisisi@edu.city.yokohama.jp

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nishishiba>



平和への思い つなぐ

学校長 柴原美樹子

長く暑い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が、学校に戻ってきました。一回り大きくなった姿がとてもまぶしく、たくましさを感じさせてくれます。今年の夏は猛暑や酷暑が続き、また、局地的な大雨などによる被害も多く、心に痛みを覚えた方が多くいらっしゃると思います。3年ぶりに行動制限がなかったお盆休みであっても、災害のため帰省することができないご家庭もあったと思います。自然の大きな力と向き合いながら復興に向けて粘り強く取り組んでいる現地の姿をテレビや新聞で見かけると、今、自分たちができることを最後までやりきることの大切さを教えられます。

戦後77年の終戦の日となった8月15日に行われた戦没者追悼式では、遺族代表の大槻健一さんが次のように追悼の辞を述べられました。

「戦争は遠い過去の歴史的出来事ではない。今も身近にあることを再認識し、恒久平和実現に向けて、戦争の悲惨さと平和の尊さを語り続ける」と両親への感謝をこめつつ、ロシアによるウクライナ侵略などの紛争で生まれる新たな遺族の存在にも思いを寄せられていました。

「戦争をしないために」をテーマに7月30日に開かれた朝日小学生新聞座談会の記事に目を留めました。「戦争を知ると、絶対しないでほしいものになりました。大人も子どもも、もっともっと戦争について知ったらいいと思う」「戦争が国の調子が悪いときに起こるなら、世界中で、調子のよくない国を助ける仕組みがあったらいいと思う」「僕たちに必要なのは知る努力を続けることと、想像力を働かせることだと思う。交流して、互いの良いところや大切なものを知り、思いやりをもって行動すれば、大きな争いは防げるのでないか」「一度戦争が始まると、憎しみが増えて、どうやめたらいいかわからなくなってしまふ。だから戦争になる前に、お互いに譲って話し合って戦争を防ぐのは正しいと思う」（朝日小学生新聞より記事抜粋）と、子どもたちは大人が想像する以上に戦争について関心をもち、自分事としてとらえ平和を守るために真剣に話し合う姿が紙面から読み取れました。昨年の8月15日と違い、心がざわざわしているのは、私一人だけではないと感じています。日本では遺族の世代交代が進んでいますが、新たに遺族を生む地がある現実です。人とのつながりで各国が大切な国々になる日が来ることを願わずにはられません。

今日の平和を築いてきた先人の強い思いを、次世代に伝えることが私たちの使命であること、そして未来を担う子どもたちや地域の皆様と共に平和を次へつないでいきたいと思ひます。

12月2日（金）西柴小学校創立50周年記念式典を行います。半世紀にわたり西柴の伝統と歴史を築いてこられた地域の皆様や保護者の皆様に改めて感謝いたします。「地域と共に歩む 西柴小」も次世代へとつなげていきたいと思ひます。夏休み明けも、本校の教育活動への一層のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。